



Journal of Cardiology Editor-in-Chief 就任のご挨拶

平山 篤志

Atsushi HIRAYAMA, MD, FJCC
日本大学医学部内科学系循環器内科分野

この度、日本心臓病学会誌の一つであるJournal of CardiologyのEditor-in-Chiefに就任致しました日本大学医学部循環器内科の平山篤志です。

Journal of Cardiologyは坂本二哉先生が創設され、長きにわたり論文構成から指導され多くの優秀な論文を掲載されてきた歴史ある学会誌であります。その後、吉川純一先生が第2代目の編集委員長としてさらに多くの優れた論文が掲載されるようになりました。本誌での多くの優れた論文がさまざまな分野で引用されているにもかかわらず、本誌にImpact Factorが無いために知名度が広く知れ渡っていないことが問題となり、第3代目のEditor-in-Chiefとして鄭忠和先生が就任されてから本誌を和文誌と英文誌に、症例をJournal of Cardiology Casesの3学会誌に分割するという英断をされ、新たなスタートを2008年からきることになりました。その後、順調にJournal of Cardiologyは発展をとげておりますが、この度、鄭忠和先生が心臓病学会の理事長に就任され、本誌のEditor-in-Chiefを兼務することが困難となったため、不肖私がEditor-in-Chiefに就任させていただくことになりました。

現在、Journal of Cardiologyは日本からだけでなく、韓国、中国をはじめアジアからさらには、トルコなどの中東諸国、また欧米からの投稿も多くなり次第に先代のEditor-in-Chiefの方が目指された循環器学の領域で注目される雑誌となってまいりました。おそらく、今年にはImpact Factorが付けば、さらに多くの投稿が期待されるようになると思います。

先輩の先生方の努力を基礎にさらに本誌を発展させてゆくのが私の使命であると考えております。それには、会員の先生方のご協力が必須で、投稿だけでなく査読を含めて多くの先生方のご協力が必須であります。新たに広い分野にわたって的確な査読が可能となるように新しく多くの先生方にAssociate Editorになっていただきました。また本誌が国際誌としてさらに充実するようにInternational Advisory Boardの先生方を今後も充実させてゆくつもりです。

本誌がさらに発展して、循環器領域の臨床における診断、治療に役立つ貴重な研究を掲載し、情報を発信できる雑誌にしたいと考えておりますので、先生方のご指導、ご鞭撻、ご協力のほどをよろしくお願いします。